

ちよつといし話

～ 打 開 ～

22年12月1日

平成22年も12月に成りました。一年が「可もなし、不可も無し」で過ごせたならば良いと致しましょう。不幸と感じられた方は次世代に続くこと無き様^{へんかく}に変革し、子孫に負荷を残さ無い様に一代で清算致しましょう。私も、今年を振り返ると共に、平成23年に向って歩いて行く道^{いっきゅうぜんじ}を求めました。思い浮かぶのは一休^{うろじ}禅師の一句「有漏路より無漏路^{むろじ}にいたる一休、雨ふらは降れ、風ふかはふけ」です。有漏路は迷いの社会。無漏路は悟りの世界です。人間迷いは理解出来ませんが悟りに関してはどの様な状態に成れば良いのか、殆ど^{ほとん}の方は分からないと思います。唯、満たされ、悩みが無ければ覚りを得たと言えるのか、私は疑問が残ります。虐め^{いじ}にあい苦界に沈んだ少年が自殺をする。或は壮年達が仕事上や人間関係に疲れ、打開^{みいだ}を見出せず^{さと}に自殺をする。果たして自殺をして覚りは叶えられるのであろうか、疑問が残ります。残された家族等^{いかが}は如何されるのであろうか。それはそのように決められた運命なのであろうか。「生死事大 無常迅速 光陰可惜 慎勿放逸」と言う言葉がございませす。「人の命は何時亡くなるのかわからないのに、佛道^{そむ}に背いて勝手気ままな行動をすると悔やむ事に成りますよ」と、この様な解釈をすれば良いでしょう。

良寛^{りょうかん}が晩年暮らした庵^{いおり}が新潟県にあります。国上寺の五合庵^{ごごうあん}です。何方が名付けたのか知りませんが私はこの道半ば^{みちなか}を意味する五合という言葉が好きです。登山に例え、米に例え、人の一生に例えて見ても半分です。六道で言えば人間界^{まさ}であり、当に、一休みして、次に進むべきエネルギーを蓄積する場所と言えましよう。半分来たという安心感と、まだ之^ゆから半分行かねばならないという決意をする、当に考えられる場所なのです。

群馬県に霊峰妙義山^{ふもと}があり、麓^{みょうぎじんじや}の妙義神社には現在も仁王様を拝する山門があります。山門前の石標^{せきひょう}に「天必興正義^{てんはかならずせいぎをおこし}、神必感至誠^{かみはかならずせいをかんず}」と書いてあります。政治は混沌とし、経済は思うようには回復せず、外交問題も山積しております。重要なのは生活を動かしている筆頭が人間であるということです。石標に正義^{しせい}、至誠とあるように人間の資質の向上が国を治めていく条件の一番です。人間が物を作り、物を壊し、人間がもたらす行動の結果が現在の姿であることを忘れてはいけません。先ず人間^{なお}を直さなくてはより良い社会は出来ませす。人生^{まる}○で終わることが出来れば最高です。文章でも一文一文の最後を○で締めくくります。我々には「恩を受けて忘れず、やがて返す恩義があります」。間違っても仇花^{あだばな}を咲かせないようにし、良いお年をお迎え下さい。

善壽界善入院